NEW LOCAL

With well being

YAMAGUCHI UNIVERSITY
YAMAGUCHI PREFECTURAL UNIVERSITY
YAMAGUCHI GAKUGEI UNIVERSITY

地域社会の
未来をデザインし、
人々の暮らしを
DXで豊かにする。

公立大学法人 山口県立大学 Yamaguchi Prefectural University

YAMAGUCHI UNIVERSITY 山口大学

山口学芸大学 Yamaguchi Gakugei University

STARTUP INTERVIEW

高度情報化社会でDXによる変革が求められる中、山口大学と山口県立大学、山口学芸大学の3大学連携による「ひとや地域（まち・文化・教育）のwell beingに貢献する文系DX人材の育成事業」が2022年8月、文部科学省の「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に採択されました。デジタル時代をリードする人材育成とDXによる地域の課題解決、人々の多様な幸せと社会全体の豊かさが実感できる地域社会の実現に期待が集まっています。

3大学の取り組みが国の地域活性化人材育成事業～SPARC～に採択

少子高齢化や地方の過疎化、人と人とのつながりの希薄化など、現代の日本は多くの課題を抱えています。文部科学省のSPARCは、こうした中で地域社会と大学間の連携を通じて、既存の教育プログラムを再構築し、地域が求める人材の育成を目指す取り組みです。

高齢化が全国に先がけて進み、また装置型から知識集約型への産業構造転換などが求められている山口県では、「やまぐちデジタル改革基本方針」を策定。山口市が「山口市スマートシティ推進ビジョン」を策定するなど、デジタル化を重要施策に位置付け、「地域の課題を把握し、解決できる人材によるデジタル化の推進」を目指しています。

山口大学、山口県立大学、山口学芸大学の3大学は、こうした背景を踏まえて「文系DX人材育成」を掲げてSPARCに申請。

山口市にキャンパスを有する3大学は、これまでにも文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」に参加して高い評価を受けており、今回の人材育成事業も大きな期待を持って採択されました。

超スマート社会（Society 5·0）に向けて、人間中心の視点から地域を活性化

DXは、デジタル技術を浸透させ、多くの人の生活やビジネスをよりよいものへと変えていく「デジタルによる変革」を表す言葉です。その推進に必要とされるスキル・適性を備えた人材がDX人材となります。3大学の事業では、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）を基礎に「超スマート社会（Society 5·0）」に向けて、社会課題を見出して、デジタル技術を担う理系人材につなぐことのできる文系人材が必要と考え、「文系DX人材」の育成を掲げました。

また、国の教育未来創造会議では、未来を支える人材の育成において在りたい社会像を実現するための重要な視点として、一人ひとりの多様な幸せと社会全体の豊かさであるウェルビーイング（well being）を掲げています。幸せには、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康も含まれ、文化と教育はその基盤となります。

地域の課題を適切に見定め、DXを実践して解決するためには、デジタル技術による変革だけでなく、人間中心の視点から地域を活性化することが大事であると捉え、「well beingに貢献する」ことを大きな柱としました。

国公私立の枠を超えた大学等連携推進法人の設置により、3大学が教育リソースを活用・補完

事業実施に当たって3大学は、「大学等連携推進法人」を設置（2023年4月予定）します。これは文科省が2021年に創設した制度で、大学等連携推進法人の下に「連携開設科目」を設け、教員の相互派遣などもできます。3大学は、国公私立の枠を超えて連携し、それぞれが「強み」とする教育リソースを活用・補完し合って、地域に根差したDXを推進する文系人材を育成します。

事業では、3大学の連携開設科目を含む「SPARC教育プログラム」を構築します。具体的には、文科省が認定する「数理・データサイエンス・AI教育」で先行している山口大学がデータサイエンス教育、山口県立大学はPBL（Project Based Learning＝課題解決型学習）を取り入れた地域学教育などを展開し、山口学芸大学はDX人材を育てる教員の養成を推進します。

教育プログロムは、各大学がそれぞれの特色を生かして実施する「分野専門教育プログラム」も併せて構成。山口大学は、学部等連携課程として「ひと・まち共創学環（仮称）」の新設を、山口県立大学は既存学部（国際文化学部）の再編を、山口学芸大学は教育学部に「小・中STEAM人材育成コース」の新設を予定しています。

3大学は再構成した教育プログラムで協働し、文理横断型のSTEAM教育、地域の課題解決PBL型プログラムなどを推進。著作権など知的財産に関する教育も行います。

産学官が連携し、『維新の地』山口でDX時代を先導

SPARCでは、産学官に金融機関も加えた「地域連携プラットフォーム」の構築が求められており、「大学リーグやまぐち」と連携した事業運営を行っています。令和５年１月には、大学リーグやまぐちの下に「地域が求める人材育成ワーキング」を設置し、企業や自治体が求めるDX人材像を高等教育機関に提示するとともに、恒常的に地域社会が求める人材像を捉えることができる体制を整えました。DXを担う人材が不足する中、リカレント教育やリスキリングなど社会人のスキルアップも支援します。3大学の連携は、それぞれの大学だけでなく、地域の高等教育の魅力向上を目指しています。

明治維新を先導した山口で、DX時代を牽引する人材の育成・輩出とイノベーション創出を目指す教育改革が進み、先進的なモデルが全国に波及することが期待されています。

1 山口大学のPBLの授業風景

2 山口県立大学の地域学教育

1 2

山口大学／山口県立大学／山口学芸大学　3大学が連携

ひとや地域のwell beingに貢献する「文系DX人材」を育成

topics 01

実践的なデジタル人材の育成により、山口県の抱える様々な課題解決に期待

近年、人口減少や少子高齢化、産業構造の変化、グローバル化の進展により地域の課題は複雑多様化しており、コロナ禍を契機に県政を取り巻く環境が大きく変化する中で、人々の意識や価値観・行動の変化、さらには社会変革に対応していくことが求められています。

デジタルは、その社会変革を進めるための原動力であるとともに、県が抱える様々な課題を解決するための鍵となるものであり、本県の新たな未来を創っていくためにも、デジタルの持つ力を積極的に活用し、その可能性を最大限引き出していくことが極めて重要です。

しかし、本県において、デジタル技術等に精通した人材や、デジタル技術を活用してイノベーションを創出できる人材は大変不足しており、行政分野だけでなく、産業界、特に中小企業から人材を求める声が多くあがっています。

こうしたことから、昨年末に策定した本県の新たな総合計画「やまぐち未来維新プラン」においても、「デジタル」を重要な視点の１つに掲げ、多様な主体と連携・協働しながら、デジタル社会の実現に不可欠な人材の育成を推進していくこととしています。

このたびの山口大学・山口県立大学・山口学芸大学による「文系ＤＸ人材」の育成の取組により、大学が実践的なデジタル人材を育成し、県内の様々な現場に送り込んでいただくことで、本県が抱える課題の解決に貢献するとともに、本県のデジタル改革をより高いレベルに押し上げる強力な礎になるものと期待しているところであり、県としても全力で応援してまいります。

topics 02

ひとや地域（まち・文化・教育）のwell beingに貢献する文系DX人材の育成

Society5.0に向けて
人間中心の視点から地域活性化への大学協働

- 地域課題を適切に捉えてDX実践できる人材を育成
- 山口県産業の装置型から知識集約型への転換に貢献

全国初の国公私立大学による大学等連携推進法人の設置　**大学等連携推進法人**

令和5年4月設置予定

山口県立大学（文化・まち）	山口大学（まち・ひと）	山口学芸大学（教育・文化）
国際文化学部の再編 令和7年4月設置予定	ひと・まち共創学環（仮称）の新設 令和7年4月設置予定	小・中STEAM人材育成コース（仮称）の新設 令和8年4月開始予定
（養成する人材） 地域社会の未来をリデザインし、人々の暮らしのDX推進に貢献できる人材	（養成する人材） 人間の心理・行動の理解と地域社会に対する分析力を基礎として地域課題の発見と解決ができる文系DX人材	（養成する人材） 将来のDX推進に貢献できるSTEAM人材を育てる教員

文理横断・地域課題PBL（アントレプレナー教育含む）…3大学共同開設…

連携開設　SPARC教育プログラム　DXによるPBL教育　STEAM教育

地域が抱える課題や求める人材像を提示

大学リーグやまぐち（地域連携プラットフォーム）

3大学の連携による「SPARC教育プログラム」学長インタビュー

山口県立大学

PBL型の「地域学」、文理融合の「総合知」で豊かな未来。

山口県立大学は、地域の要請に応える「地域貢献型大学」として、健康や福祉・文化の分野で専門教育を行い、優れた地域人材を輩出しています。SPARC事業では、こうした得意分野を生かし、PBL＝課題解決型学習の手法を取り入れた「地域学」を連携開設科目として提供します。

PBLは、知識の暗記など受動的な学習ではなく、自らが問題を見つけて解決する能力を養います。キャンパスを出て地域（人や企業など）と関わり、その中で解決すべき課題を発掘して、解決策を探求します。本学の国際文化や社会福祉、看護栄養、さらに連携大学の多くの学生が、ともに地域を学ぶことで、豊かな未来を描き人々が豊かに暮らせる地域社会づくりを目指します。

DXは理系の領域と思われがちですが、活用するためには理系や文系の枠を超えた「総合知」が必要です。文系の人もデータを読み解き、また理系の人は文系に触れることで視野を広げ、ともに新しい価値が創造できます。理工系に進む女子が少ない中で、女性のDX人材育成にも力を入れます。

山口は少子高齢化の全国上位県です。その抱える課題は日本、そして世界の課題でもあります。SPARCで学んだ若い文系DX人材が、地域や職場のDXリテラシー（活用能力）を高めて課題を解決し、各地域が特有の地域資源を生かして自立していける分散型社会の構築に貢献することを期待します。

山口大学

データサイエンス教育を活用。人間の心理・行動の理解等を基礎とするDX人材を育成。

山口大学は9学部8研究科からなる地域の基幹総合大学です。常に改革・改善に取り組み、DX推進の基盤となるデータサイエンス教育をいち早く全学に取り入れています。

SPARC事業で連携開設科目となる「データサイエンス」は、AIやIoTなどデジタル技術で集積されたデータから、有益な知見を得ようという学問分野です。これまでの勘や経験などに基づく方法ではなく、数学や統計学、プログラミングなどの理論を用いてデータの分析や解析を行い、科学や社会、ビジネスなどに役立つ価値を引き出します。

活用シーンは、製造や販売の現場、医療・健康、農業、漁業、公共、教育、防災など多岐にわたり、今後ますます広がります。データを見るときには、理系の理論だけでなく社会と人間の行動メカニズムや多様性への理解も重要です。山口大学では「ひと・まち共創学環（仮称）」を新設（2025年4月予定）し、人間の心理・行動の理解と地域社会に対する分析力を基礎として、地域課題の発見と解決ができるDX人材を育てます。

DX推進が喫緊の課題となる中で、特に即戦力人材の社内育成が難しい中小企業からは、リカレント教育や、社会の変化に対応して新たに必要とされるスキルを習得するリスキリング教育の役割も期待されており、このようなニーズも大事にして対応します。

山口学芸大学

STEAM教育とPBLにより、将来のDX人材を育てる教員を養成。

山口学芸大学は、芸術を基盤とする教育を通して、教育者・保育者を輩出する教員養成大学です。運営する宇部学園は2021年、10年後を見通した「学園ビジョン2030」を策定し、Society5.0（超スマート社会）の時代に求められる人材の育成に努めています。

SPARC事業では、「文理横断型のSTEAM教育」と「DXによる地域課題解決PBL」を展開し、将来のデジタル変革を支える子どもたちを育て、地域の課題発見や解決に貢献できるより質の高い教員を養成します。

STEAMは、理系領域の科学・技術・工学・数学の英語の頭文字＝STEMに、Art（アート）のAを加えたものです。Artについて政府は、「デザインする力を軸にした、芸術・文化・生活・経済・法律・政治・倫理等を含めた広い範囲」と定義しています。デザインは近年、課題に対する最適の解決策を導くデザイン思考が注目されるなど、その力を軸にした学びはDX推進、新しい社会を創造する上で大事です。

教育現場では、小学校のプログラミング授業、中学高校で情報の学習など教育改革が進んでいます。一方、IT系の人材は2030年に最大79万人が不足するという推測もあります。こうした中で、SPARCで育った教員が地域コミュニティーとつながり、教育・保育・子育て等に関わることは、地域社会の発展にさらに大きく寄与すると確信します。

［発行］山口大学総務企画部地域連携課
〒753-8511 山口市吉田1677-1
TEL:083-933-5630／FAX:083-933-5029